

■点検計画データ

項目名	概要・備考	データ型	長さ
点検計画ID	全テーブルを通じてのユニークコード	INT	
道路種別	1:高速自動車国道、2:一般国道（指定区間）、3:一般国道（指定区間外）、4:都道府県道、5:市町村道	INT	
管理区分	1:国、2:都道府県、3:道路公社、4:政令市、5:市区町村、6:高速道路会社	INT	
出張所コード	6桁数字で上2桁が整備局コード	INT	
路線番号	Eではじまる直轄道路もあるため、4文字の文字列	CHAR	4
現旧区分	1:現道、2:旧道、3:新道	INT	
路線枝番	3桁数字(冒頭にゼロが入ることがあるため文字列)	CHAR	3
起点kp		DECIMAL	
終点kp		DECIMAL	
起点緯度	旧様式Aは度分秒→新様式Aは度(小数点)	FLOAT	
起点経度	旧様式Aは度分秒→新様式Aは度(小数点)	FLOAT	
終点緯度	旧様式Aは度分秒→新様式Aは度(小数点)	FLOAT	
終点経度	旧様式Aは度分秒→新様式Aは度(小数点)	FLOAT	
区間距離	m単位	INT	
分類	1:A, 2:B, 3:C, 4:D, 9:不明	INT	
上り下り	1:上り、2:下り、3:上下、9:その他	INT	
車線コード	1~9:第x車線、11:(第1)右折車線、12:第2右折車線、13:左折車線、14:登坂車線・ゆずり車線、15:追越車線、16:加減速車線、17~18:(予備)、19:その他車線、21:路肩、22:路側帯、23:停車帯、24:側道・副道、25:ランプ、26:導流帯(中央ゼブラゾーン等)、27:交差点、28:(予備)、29:その他車道部、31:歩道、32:自転車歩行者道、33:自転車道、34~38:(予備)、39:その他車道外の部分、91:車道部全体(※方向別全体の場合は"上り下り"で方向を指定)、92~99:(予備)	INT	
その他位置内容	車線コードが"その他"(19,29,39)以外の場合も入力可	VARCHAR	
点検実施予定年度		INT	
点検手法コード	1:路面性状測定車、2:ビデオカメラ、スマートフォン等を用いた簡易計測、3:目視(徒歩)、4:目視(車両)、5~7:(予備)、8:未定、9:その他	INT	
予備コード①		VARCHAR	
予備コード②		VARCHAR	
点検計画備考	自由文記述	TEXT	
データ登録者	データ登録したユーザのIDを自動入力	INT	
データ登録日	既存データは点検年月の末日を仮入力	DATE	

■点検結果データ

項目名	概要・備考	データ型	長さ
点検結果ID	全テーブルを通じてのユニークコード	INT	
道路種別	1:高速自動車国道、2:一般国道（指定区間）、3:一般国道（指定区間外）、4:都道府県道、5:市町村道	INT	
管理区分	1:国、2:都道府県、3:道路公社、4:政令市、5:市区町村、6:高速道路会社	INT	
出張所コード	6桁数字で上2桁が整備局コード	INT	
路線番号	Eではじまる直轄道路もあるため、4文字の文字列	CHAR	4
現旧区分	1:現道、2:旧道、3:新道	INT	
路線枝番	3桁数字(冒頭にゼロが入ることがあるため文字列)	CHAR	3
起点kp		DECIMAL	
終点kp		DECIMAL	
起点緯度	小数点による	FLOAT	
起点経度	〃	FLOAT	
終点緯度	〃	FLOAT	
終点経度	〃	FLOAT	
区間距離	m単位	INT	
上り下り	1:上り、2:下り、3:上下、9:その他	INT	
車線コード	1~9:第x車線、11:(第1)右折車線、12:第2右折車線、13:左折車線、14:登坂車線・ゆずり車線、15:追越車線、16:加減速車線、17~18:(予備)、19:その他車線、21:路肩、22:路側帯、23:停車帯、24:側道・副道、25:ランプ、26:導流帯(中央ゼブラゾーン等)、27:交差点、28:(予備)、29:その他車道部、31:歩道、32:自転車歩行者道、33:自転車道、34~38:(予備)、39:その他車道外の部分、91:車道部全体(※方向別全体の場合は"上り下り"で方向を指定)、92~99:(予備)	INT	
その他位置内容	車線コードが"その他"(19,29,39)以外の場合も入力可	VARCHAR	
点検年月	年・月のセル区分を廃する	INT	
健全性コード	10:I、20:II、30:III、31:III-1、32:III-2、33~40:(予備)	INT	
判断基準	1:ひび割れ、2:わだち掘れ、3:IRI、4:目地部破損、5:詳細調査、6~8:(予備)、9:その他、11:ひび割れ+わだち掘れ、12:ひび割れ+IRI、13:わだち掘れ+IRI、14:ひび割れ+わだち掘れ+IRI	INT	
その他判断基準内容		VARCHAR	
ひび割れ点検手法コード	1:路面性状測定車、3:ビデオカメラによる撮影映像の画像解析、4:目視(徒歩点検)、5:目視(車上点検)、6:目視(方法不明)、7~8:(予備)、9:その他	INT	
ひび割れ点検手法詳細	上問に9(その他)以外を選択した場合も入力可。画像解析を用いた場合、利用したシステムの名称を入力するようマニュアルで依頼	VARCHAR	
ひび割れ区分	舗装点検要領の区分に基づく(1:0~20%、2:20~40%、3:40%~, 4~9(予備))	INT	
ひび割れ計測値	%	FLOAT	
わだち掘れ点検手法コード	1:路面性状測定車、2:スマートフォンセンサーデータの解析、3:ビデオカメラによる撮影映像の画像解析、4:目視(徒歩点検)、5:体感・目視(車上点検)、6:体感・目視(方法不明)、7~8:(予備)、9:その他	INT	
わだち掘れ点検手法詳細	上問に9(その他)以外を選択した場合も入力可。スマホセンサー等を用いた場合、利用したシステムの名称を入力するようマニュアルで依頼	VARCHAR	
わだち掘れ区分	1:0~20mm、2:20~40mm、3:40mm~, 4~9(予備)	INT	
わだち掘れ計測値	mm	FLOAT	
IRI点検手法コード	1:クラス1(水準測量)、2:クラス2(プロファイル測定装置)、3:クラス3(RTRRMS)、4:クラス4(体感・目視)、5:平坦性からの変換、6~7:予備、8:不明、9:その他	INT	
IRI点検手法詳細	上問に9(その他)以外を選択した場合も入力可。利用したシステムの名称を入力するようマニュアルで依頼	VARCHAR	
IRI区分	1:0~3mm/m、2:3~8mm/m、3:8mm/m~, 4~9(予備)	INT	
IRI計測値	mm/m	FLOAT	
すべり摩擦計測手法	計測車、DFテスト、振り子式テスト、光学式計測機器	CHAR	255
すべり摩擦係数	平均すべり摩擦係数(μ)の値を小数第2位まで記入	FLOAT	

目地部健全性	1:欠け等の損傷あり、2:損傷なし、3~9:(予備)	INT	
目地部損傷状況	目地部の損傷状況を記載	VARCHAR	
使用目標年数到達年次	表層の供用年数が使用目標年数に到達する年次(西暦年)を整数で入力	INT	
予備コード①		VARCHAR	
予備コード②		VARCHAR	
点検結果備考	自由文記述	TEXT	
データ登録者	データ登録したユーザのIDを自動入力	INT	
データ登録日	既存データは点検年月の末日を仮入力	DATE	

■詳細調査データ

項目名	概要・備考	データ型	長さ
詳細調査実施状況ID	全テーブルを通じてのユニークコード	INT	
道路種別	1:高速自動車国道、2:一般国道（指定区間）、3:一般国道（指定区間外）、4:都道府県道、5:市町村道	INT	
管理区分	1:国、2:都道府県、3:道路公社、4:政令市、5:市区町村、6:高速道路会社	INT	
出張所コード	6桁数字で上2桁が整備局コード	INT	
路線番号	Eではじまる直轄道路もあるため、4文字の文字列	CHAR	4
現旧区分	1:現道、2:旧道、3:新道	INT	
路線枝番	3桁数字(冒頭にゼロが入ることがあるため文字列)	CHAR	3
起点kp	詳細調査の発注区間の起点	DECIMAL	
終点kp	詳細調査の発注区間の終点	DECIMAL	
起点緯度	小数点による	FLOAT	
起点経度	〃	FLOAT	
終点緯度	〃	FLOAT	
終点経度	〃	FLOAT	
上り下り	1:上り、2:下り、3:上下、9:その他	INT	
車線コード	1~9:第x車線、11:(第1)右折車線、12:第2右折車線、13:左折車線、14:登坂車線・ゆずり車線、15:追越車線、16:加減速車線、17~18:(予備)、19:その他車線、21:路肩、22:路側帯、23:停車帯、24:側道・副道、25:ランプ、26:導流帯(中央ゼブラゾーン等)、27:交差点、28:(予備)、29:その他車道部、31:歩道、32:自転車歩行者道、33:自転車道、34~38:(予備)、39:その他車道外の部分、91:車道部全体(※方向別全体の場合は"上り下り"で方向を指定)、92~99:(予備)	INT	
その他位置内容	車線コードが"その他"(19,29,39)以外の場合も入力可	VARCHAR	
詳細調査年月		INT	
詳細調査種類	1:FWD調査(土木研究所検定装置による)、2:小型FWD調査、3:コア抜き、4~8:(予備)、9:その他	INT	
診断結果	診断結果(損傷のみられる層、打換え・増厚等推奨される対策等)を入力	VARCHAR	
損傷が確認された深さ	詳細調査より診断された要打換え深さをcm単位で入力	INT	
予備コード①		VARCHAR	
予備コード②		VARCHAR	
詳細調査備考	自由文記述	TEXT	
成果品特定情報	設計書コード等、調査委託の成果品を特定するための情報を入力	VARCHAR	
データ登録者	データ登録したユーザのIDを自動入力	INT	
データ登録日	既存データは詳細調査年月の末日を仮入力	DATE	

■FWD調査結果データ

項目名	概要・備考	データ型	長さ
FWD調査ID	全テーブルを通じてのユニークコード	INT	
3)詳細調査実施状況ID	本調査が属する3)詳細調査区間のID	INT	
道路種別	1:高速自動車国道、2:一般国道（指定区間）、3:一般国道（指定区間外）、4:都道府県道、5:市町村道	INT	
出張所コード	6桁数字で上2桁が整備局コード	INT	
管理区分	1:国、2:都道府県、3:道路公社、4:政令市、5:市区町村、6:高速道路会社	INT	
路線番号	1:現道、2:旧道、3:新道	CHAR	4
現旧区分	1:現道、2:新道、3:旧道	INT	
路線枝番	3桁数字(冒頭にゼロが入ることがあるため文字列)	CHAR	3
調査点kp		DECIMAL	
調査点緯度	旧様式Aは度分秒→新様式Aは度(小数点)	FLOAT	
調査点経度	旧様式Aは度分秒→新様式Aは度(小数点)	FLOAT	
上り下り	1:上り、2:下り、3:上下、9:その他	INT	
車線コード	1~9:第x車線、11:(第1)右折車線、12:第2右折車線、13:左折車線、14:登坂車線・ゆずり車線、15:追越車線、16:加減速車線、17~18:(予備)、19:その他車線、21:路肩、22:路側帯、23:停車帯、24:側道・副道、25:ランプ、26:導流帯(中央ゼブラゾーン等)、27:交差点、28:(予備)、29:その他車道部、31:歩道、32:自転車歩行者道、33:自転車道、34~38:(予備)、39:その他車道外の部分、91:車道部全体(※方向別全体の場合は"上り下り"で方向を指定)、92~99:(予備)	INT	
その他位置内容・位置	車線コードが"その他"(19,29,39)以外の場合も入力可 車線上の位置(IWP,OWP)をあわせて記載	VARCHAR	
詳細調査年月	1:上り、2:下り、3:上下、9:その他	INT	
調査時気温	気温を整数で入力。氷点下の場合はマイナスで入力	INT	
調査時路温	路温センサの測定値を整数で入力	INT	
載荷加重	0.1kN単位で入力	DECIMAL	
載荷板直径	センチメートル単位で入力	INT	
たわみ量(D0)	載荷点でのたわみ量測定結果をマイクロメートル単位で入力	INT	
たわみ量(D10)	マイクロメートル単位で入力。載荷板の直径が40cmの場合は省略	INT	
たわみ量(D20)	マイクロメートル単位で入力。載荷板の直径が40cmの場合は省略	INT	
たわみ量(D30)	マイクロメートル単位で入力	INT	
たわみ量(D45)	マイクロメートル単位で入力	INT	
たわみ量(D60)	マイクロメートル単位で入力	INT	
たわみ量(D90)	マイクロメートル単位で入力	INT	
たわみ量(D120)	マイクロメートル単位で入力	INT	
たわみ量(D150)	マイクロメートル単位で入力	INT	
たわみ量(D200)	マイクロメートル単位で入力	INT	
コンクリート板目地割	1:目地部あり	INT	
予備コード①		VARCHAR	
予備コード②		VARCHAR	
備考	詳細調査時の特記事項や把握できた損傷状況等を自由文記述	TEXT	
データ登録者	データ登録したユーザのIDを自動入力	INT	
データ登録日	既存データは詳細調査年月の末日を仮入力	DATE	

■舗装構成データ

項目名	概要・備考	データ型
ID	全テーブルを通じてのユニークコード	INT
道路種別	1:高速自動車国道、2:一般国道（指定区間）、3:一般国道（指定区間外）、4:都道府県道、5:市町村道	INT
管理区分	1:国、2:都道府県、3:道路公社、4:政令市、5:市区町村、6:高速道路会社	INT
出張所コード	6桁数字で上2桁が整備局コード	INT
路線番号	Eではじまる直轄道路もあるため、4文字の文字列	CHAR
現旧区分	1:現道、2:旧道、3:新道	INT
路線枝番	3桁数字(冒頭にゼロが入ることがあるため文字列)	CHAR
起点kp		DECIMAL
終点kp		DECIMAL
起点緯度	旧様式Aは度分秒→新様式Aは度(小数点)	FLOAT
起点経度	旧様式Aは度分秒→新様式Aは度(小数点)	FLOAT
終点緯度	旧様式Aは度分秒→新様式Aは度(小数点)	FLOAT
終点経度	旧様式Aは度分秒→新様式Aは度(小数点)	FLOAT
区間距離	m単位	INT
上り下り	1:上り、2:下り、3:上下、9:その他	INT
車線コード	1~9:第x車線、11:(第1)右折車線、12:第2右折車線、13:左折車線、14:登坂車線・ゆずり車線、15:追越車線、16:加減速車線、17~18:(予備)、19:その他車線、21:路肩、22:路側帯、23:停車帯、24:側道・副道、25:ランプ、26:導流帯(中央ゼブラゾーン等)、27:交差点、28:(予備)、29:その他車道部、31:歩道、32:自転車歩行者道、33:自転車道、34~38:(予備)、39:その他車道外の部分、91:車道部全体(※方向別全体の場合は"上り下り"で方向を指定)、92~99:(予備)	INT
その他位置内容	車線コードが"その他"(19,29,39)以外の場合も入力可	VARCHAR
第1層_敷設年月	MICHIは層の区分なく敷設年月を格納	INT
第1層_材料コード	別紙コード表を参照。再生材の利用有無を含めてコード化。	VARCHAR
第1層_バインダ種類コード	別紙コード表を参照	VARCHAR
第1層_厚さ	cm	DECIMAL
第1層_上面処理コード	舗装表面の処理内容をコードで記載	VARCHAR
第1層_詳細情報	材料、バインダ、上面処理等について、コードによらない特記事項等ある場合に自由記入	VARCHAR
第2層_敷設年月		INT
第2層_材料コード	別紙コード表を参照。再生材の利用有無を含めてコード化	VARCHAR
第2層_バインダ種類コード	別紙コード表を参照	VARCHAR
第2層_厚さ	cm	DECIMAL
第2層_上面処理コード	特に水対策等を実施した場合に内容をコードで入力	VARCHAR
第2層_詳細情報	材料、バインダ、上面処理等について、コードによらない特記事項等ある場合に自由記入	VARCHAR
以下、第8層まで、「舗設年月」～「詳細情報」の繰り返し		
補修理由コード	10:点検結果(健全性)、11:点検結果(ひび割れ)、12:点検結果(わだち掘れ)、13:点検結果(平坦性)、14:点検結果(骨材飛散)、15:点検結果(その他)、21:通報(段差)、22:通報(振動)、23:通報(その他)、31:占用復旧、41:排水性向上、42:路面温度上昇抑制、43:凍結抑制、99:その他	INT
補修理由詳細	補修した理由について自由記入	VARCHAR
施工業者名	施工業者の会社名を記入	VARCHAR
予備コード①		VARCHAR
予備コード②		VARCHAR
データ登録者	データ登録したユーザのIDを自動入力	INT
データ登録日	MICHIは"初期登録日""修正日"の新しい方を採用	DATE
データ更新事由	新設、修繕工事に伴う場合は当該工事の設計書コードを記載。その他の場合は更新理由を文章で記載	VARCHAR
有効期間終了日	その後舗装構成が更新された場合、更新日を記録	DATE

■舗装設計データ

項目名	概要・備考	データ型	長さ
ID	全テーブルを通じてのユニークコード	INT	
道路種別	1:高速自動車国道、2:一般国道（指定区間）、3:一般国道（指定区間外）、4:都道府県道、5:市町村道	INT	
管理区分	1:国、2:都道府県、3:道路公社、4:政令市、5:市区町村、6:高速道路会社	INT	
出張所コード	6桁数字で上2桁が整備局コード	INT	
路線番号	Eではじまる直轄道路もあるため、4文字の文字列	CHAR	4
現旧区分	1:現道、2:旧道、3:新道	INT	
路線枝番	3桁数字(冒頭にゼロが入ることがあるため文字列)	CHAR	3
起点kp		DECIMAL	
終点kp		DECIMAL	
起点緯度	小数点による	FLOAT	
起点経度	〃	FLOAT	
終点緯度	〃	FLOAT	
終点経度	〃	FLOAT	
区間距離	m単位	INT	
上り下り	1:上り、2:下り、3:上下、9:その他	INT	
車線コード	1~9:第x車線、11:(第1)右折車線、12:第2右折車線、13:左折車線、14:登坂車線・ゆずり車線、15:追越車線、16:加減速車線、17~18:(予備)、19:その他車線、21:路肩、22:路側帯、23:停車帯、24:側道・副道、25:ランプ、26:導流帯(中央ゼブラゾーン等)、27:交差点、28:(予備)、29:その他車道部、31:歩道、32:自転車歩行者道、33:自転車道、34~38:(予備)、39:その他車道外の部分、91:車道部全体(※方向別全体の場合は"上り下り"で方向を指定)、92~99:(予備)	INT	
その他位置内容	車線コードが"その他"(19,29,39)以外の場合も入力可	VARCHAR	
舗装計画交通量区分		CHAR	2
設計CBR	MICHIでの呼称は"路床土CBR"	INT	
舗装設計法	1:経験に基づく設計法(TA法)、2:経験に基づく設計法(TA法以外)、3:理論設計法(多層弾性理論)、4:路論設計法(その他)、5:コンクリート(土木研究所式)、6~8:(予備)、9:その他	INT	
舗装設計期間		INT	
保証期間終了年月	長期保証適用区間の場合、保証期間が終了する年月を入力	INT	
目標性能指標値	設定した指標（ひびわれ、わだち等の別）と目標値を入力	INT	
予備コード①		VARCHAR	
予備コード②		VARCHAR	
備考	自由文記述	TEXT	
成果品特定情報	設計書コード等、設計業務の成果品を特定するための情報を入力	VARCHAR	
データ登録者	データ登録したユーザのIDを自動入力	INT	
データ登録日		DATE	

■非定型データ

項目名	概要・備考	データ型	長さ
ID	全テーブルを通じてのユニークコード	INT	
道路種別	1:高速自動車国道、2:一般国道（指定区間）、3:一般国道（指定区間外）、4:都道府県道、5:市町村道	INT	
管理区分	1:国、2:都道府県、3:道路公社、4:政令市、5:市区町村、6:高速道路会社	INT	
出張所コード	6桁数字で上2桁が整備局コード	INT	
路線番号	Eではじまる直轄道路もあるため、4文字の文字列	CHAR	4
現旧区分	1:現道、2:旧道、3:新道	INT	
路線枝番	3桁数字(冒頭にゼロが入ることがあるため文字列)	CHAR	3
起点kp	点情報は起点kpにのみ記載	DECIMAL	
終点kp	様式Bのみ区間情報のため終点kpを記載。点情報の場合は空白	DECIMAL	
起点緯度	小数点による	FLOAT	
起点経度	//	FLOAT	
終点緯度	// (点情報の場合は空白)	FLOAT	
終点経度	// (点情報の場合は空白)	FLOAT	
上り下り	1:上り、2:下り、3:上下、9:その他	INT	
車線コード	1~9:第x車線、11:(第1)右折車線、12:第2右折車線、13:左折車線、14:登坂車線・ゆずり車線、15:追越車線、16:加減速車線、17~18:(予備)、19:その他車線、21:路肩、22:路側帯、23:停車帯、24:側道・副道、25:ランプ、26:導流帯(中央ゼブラゾーン等)、27:交差点、28:(予備)、29:その他車道部、31:歩道、32:自転車歩行者道、33:自転車道、34~38:(予備)、39:その他車道外の部分、91:車道部全体(※方向別全体の場合は"上り下り"で方向を指定)、92~99:(予備)	INT	
その他位置内容	車線コードが"その他"(19,29,39)以外の場合も入力可	VARCHAR	
関連データ テーブルID	関連データの記録された他テーブルのIDを記録し紐付けを可能とする ・様式B等の点検時写真：2)点検結果テーブルのID ・FWD調査の動的データ：4)FWD結果テーブルのID ・コア抜き時のコア写真：3)詳細調査テーブルのID ・その他調査の概要報告書：3)詳細調査テーブルのID ・舗装種別選定チェックシート：6)舗装設計テーブルのID	INT	
ファイルの種類	1:点検写真、2:様式B、3:FWD動的データ、4:小型FWDデータ、5:コア写真、6:その他調査結果、7:舗装種別選定チェックシート、8:(予備)、9:その他データ	INT	
ファイルリンク	ファイルを格納しているクラウドへのリンク	VARCHAR	
予備コード①		VARCHAR	
予備コード②		VARCHAR	
メモ	旧様式Bでメモされた損傷状況のほか、調査条件等の内容を自由文で入力	TEXT	
データ登録者	データ登録したユーザのIDを自動入力	INT	
データ登録日		DATE	